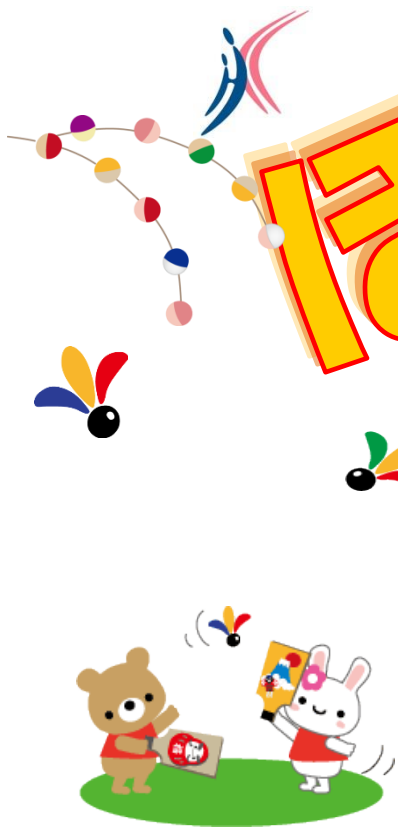


ほのぼの



センター専属キャラクター
こころちゃんとゆたかちゃん

ご挨拶
あけまして
おめでとうございます



センター長ご挨拶



認知症疾患医療センター
センター長
谷内 弘道

新年明けましておめでとうございます。今年も亀田北病院認知症疾患医療センターを宜しくお願い申し上げます。今回は、若年性認知症の話です。若年性認知症とは、65歳未満で発病する認知症です。認知症患者数の約2.4%が若年性認知症であり、認知症500万人時代と言われているわが国には、若年性認知症の人が約12万人いると想定されます。若年性認知症の原因は血管性認知症が最も多く、次いでアルツハイマー、頭部外傷後遺症、前頭側頭変性症の順になっています。もし、一家の働き手が若くして認知症になったとしたらどうでしょう。

収入が減るなどの経済的影響が生じ、配偶者と子供達が動揺するなどの心理的な影響も生じます。なかには若年性認知症の人と認知症の両親とを介護することになる配偶者もいることでしょうか。家族の介護負担を減らすためには通所サービスの利用が望ましいのですが、「老人ばかりの場所には行きたくない」という本人の拒否や、「若年性認知症の人の介護経験が乏しいから」という施設側の受け入れ拒否によって通所に結びつかないことも多いようです。また、本人の混乱が激しくなった場合に入院を希望しても、興奮が激しいので対応できない」という医師もいるそうです。以下に重要なことをまとめます。①周囲の人がご本人の気持ちを理解しながら対応すること。②対応している周囲の人にも相談相手を持つこと。③若年性認知症の人が利用できるサービスを知ること（精神障害者保健福祉手帳、障害基礎年金、就労継続支援事業など）。なお、函館には職業紹介をしてくれる函館障害者就業・生活支援センター「すてっぷ」、入所・通所・軽作業が可能な「福祉村四丁目の夕日」、軽作業が可能な「千堂社」などもあります。④就労している場合は就労継続に向けての努力をすることなどです。国の認知症政策であるオレンジプランに「若年性認知症の支援」があげられていますので、今後適切なサービスがたくさんつくられることに期待したいと思います。



まるまる

「認知症の〇〇」



☆今回のテーマは「認知症の理解について」☆

徘徊や妄想などの症状は「問題行動」と捉えられがちですが、なぜその症状が起きているのかを考えることが最も大事なことです。たとえば、周囲から見ればただ歩き回っているように見える徘徊も本人にとっては無意味な行動ではなく、「娘時代を過ごした故郷の家に帰ろうとしている」、「毎日通った職場に出かけようとしている」など、一人ひとりの行動にはそれぞれの意味があります。

認知症高齢者への接し方の基本は、本人の世界を理解し、大切にすること、相手の心に寄り添い受容しながら信頼関係を養うことです。常に自分が相手だったらと考え、気持ちを察し、本人が安心できるコミュニケーションを心がけることで、行動も感情も落ち着きます。



【接し方のヒント】

●自尊心を傷つけない

物忘れや失敗を叱ったり、頭ごなしに否定しない。教え込もうと説得しても効果はありません。

●本人が思う世界を理解しそれに合わせる

本人が今住んでいる世界を理解し大切にすること、その世界と現実とのギャップを感じさせないようにすることで、本人は安心し落ち着きます。

●相手の主張を受け入れる

現実とは異なっても、本人の主張を受け入れる態度で接するとこだわりも消えます。正論を説いても理解できず混乱するだけです。

●やさしく愛情を持って接する

認知症の人も感情は強く残っています。穏やかな気持ちになれるよう、よい感情が残るよう接することが大切です。そのためにはその人らしさに興味や関心を持ち、傾聴し、こまめに声をかけることです。

●通訳者としてのコミュニケーションを

伝えたいこと、行動したいことを思い出すことができるように、さりげなくサポートがコミュニケーションをとりましょう。

●本人の習慣や役割を継続できるように接しましょう

調理や掃除の一部などできることはしてもらい、感謝の気持ちを伝えましょう。誰かの役に立っているという自信を持ち、楽しさを感じることで脳も活性化します。

●生活のリズムを整えましょう

食事をおいしく食べ、日光を浴び、日中は何かに興味を持って過ごし、夜は睡眠がとれるよう環境を整えましょう。

次回は「認知症初期集中支援チーム」についてお話しします。



活動報告



アルツハイマーデー講演会

開催日:平成 26 年 9 月 21 日(金)
 時 間:13:30~15:00
 場 所:函館国際ホテル
 内 容:認知症の人と向きあう
 講 師:木之下 徹(こだまクリニック 院長)

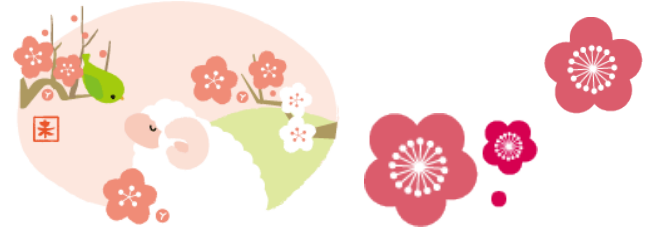
今年度第2回目の市民向け講演会を道南認知症疾患医療連携協議会で開催いたしました。当日は日曜日でお忙しい中、230名の参加を頂きました。「認知症疾患医療センターの役割・取り組みについて」富田病院 医療ソーシャルワーカー 阿部栄里子様講演、特別講演では東京都品川区で認知症の人の在宅医療に取り組んでおられる木之下徹先生よりユーモアを交えながら今までになかった視点でのお話、なにげなく使っている言葉や対応が認知症の人にとってはストレスになる事などとても参考になりました。又、先生のお話を聞き「認知症の人と向きあう」大切さを改めて考える機会となりました。



北海道認知症疾患医療センター懇話会

開催日:平成 26 年 10 月 18 日(金)
 時 間:15:30~17:00
 場 所:札幌第一三共ビル
 内 容:認知症の薬物について
 講 師:森川 文淑(旭川圭泉会病院 医長)

北海道内 18 箇所ある認知症疾患医療センターが集まり、地域の現状や課題について発表や情報交換が行われました。その中で広域エリアの介護・福祉・医療の連携が課題として挙げられました。道南圏域では 11 の市と町を函館市内にある3センターが担当しています。遠方だとセンターまで2時間以上かかる移動時間の負担やスタッフ同士が顔を合わせない連携づくりが難しく、他の地域も同様の問題を抱えていました。又、各地域「連携協議会」のメンバー構成に違いがあり、「道南認知症疾患医療連携協議会」でも参考にしていきたいと思いました。



ほのぼの会 (9月26日・10月24日・11月28日)

9月26日は老人保健施設「グランドサン亀田」、10月24日は特別養護老人ホーム「さくら館」の見学会を開催しました。施設内を見学していただき、職員より施設の特徴等詳しく説明を受ける機会となり、たくさんの方にご参加頂きました。11月28日は介護保険制度の利用の仕方について、センター職員より情報提供があり、その後茶話会を行いました。来年度も様々な講座や見学会を予定しておりますので、是非ご参加下さい。





お知らせ



ほのぼの会(地域向け介護講座・家族会)

開催日:平成 27 年 2 月 27 日(金)

時 間:14:00~15:00

内 容:茶話会

開催日:平成 27 年 3 月 27 日(金)

時 間:14:00~15:00

内 容:今年度のまとめ

毎回テーマが変わり、茶話会の時間も設けております。参加希望の方は、認知症疾患医療センターへご一報下さい。



出前講座のご案内



認知症疾患医療センターでは、認知症の疾患・治療・予防・介護など、認知症に関する様々な出前講座を開催しております。皆様の地域で、認知症について気軽に相談できる機関として、日頃の疑問を解決できる講座を開催しますので、是非ご利用していただければと思っております。

認知症疾患医療センターの医師・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士が無料でお伺いします。ご要望のある方はご一報いただければと思います。



編集後記

昨年 11 月に開催された国際会議において認知症対策が国家戦略と表明されました。

認知症疾患医療センターとしても、対策の成果を感じてもらうには、どのような取組みをするのが良いのか色々意見を出し合っているところです。

この 1 年も認知症当事者・認知症に関わる方々に希望の持てるような活動をしていきたいと思っております。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。



季刊誌担当 佐藤・坂井・藤村・川崎



【発行元】

医療法人 亀田病院 分院 亀田北病院
認知症疾患医療センター

〒041-0802

函館市石川町 191 番地 4

センター専用フリーダイヤル

0120-010-701

FAX専用ダイヤル

0138-46-5505

ホームページ

URL

<http://www.hakodate-kameda-hp.com>

